

RKU Today

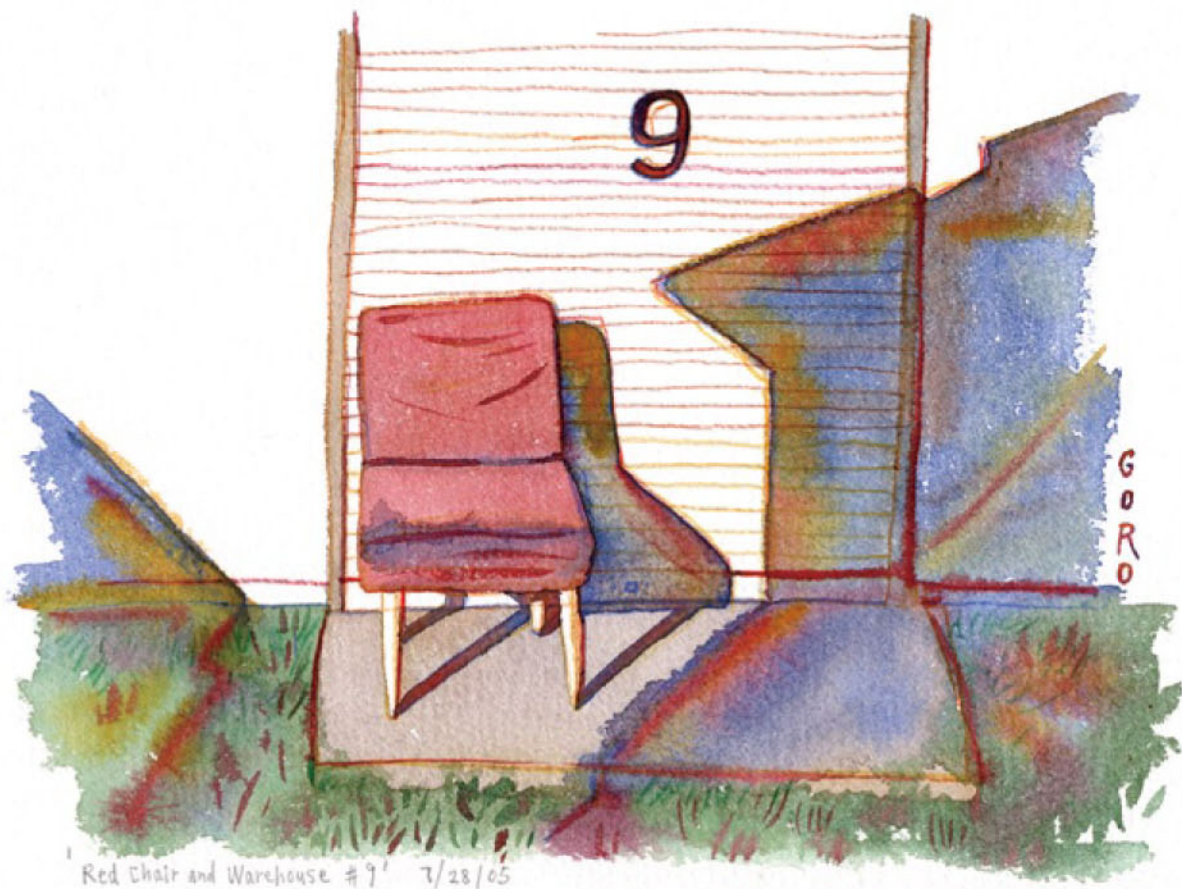
流通経済大学広報誌

AUTUMN 2009

vol. 9

【特集】

セミナーハウス活用法



vol.9

CONTENTS

【特集】

04

セミナーハウス活用法

取材：田畑 亨（スポーツ健康科学部講師）

自彊館

山中湖

湯の丸

利用ガイド

11

RKU Sports Topics

U20世界ラグビー選手権出場

【学長室だより】

12

大学および教育の多様性 小池田富男（流通経済大学長）

Close Up!

14

流通経済大学[教職員紹介]

【馬場啓一のRKUウォッチング】

16

言葉の達人—デビット・シャピロ教授—

文：馬場啓一（法学部教授）

【OB/OG訪問】立川が聞く。

18

安藤伸樹さん（1978年卒業・日本通運株式会社勤務）

取材：立川和美（社会学部准教授）

【留学生紹介】

20

許毓婷さん（中国〈台湾〉出身）「周りの人が、私を育ててくれる」

取材：沖野雅広（企画広報室）

21

流通経済大学校友会からのお知らせ

22

NEWS & TOPICS



巻頭言

うだるような暑さの夏が過ぎ、

勉学にもスポーツにも持って来いの秋が到来した。

学生の本分は学習と肉体作りである。

この季節、秋の夜長を読書に費やしたら、

日中はスポーツに励んでもらいたい。

各人の得意不得意に応じて、種目は選ばばよい。

屋内にいても、腹筋やストレッチなど、

やれることは沢山ある。

勿論屋外で、日の光を浴びながらのスポーツは最高である。

将来を思い煩うことなく、ただ無心に

身体を動かすことが出来るのも、学生の特権である。

思う存分それを謳歌してもらいたい。

健康な精神は健康な肉体にこそ宿ると

古人も言っている。

自彊館 じきょうかん

龍ヶ崎キャンパス内にある「自彊館」。2008年に改築され、とてもきれいな施設に生まれ変わったばかりである。自彊とは「みずから努め励むこと」という意で、自彊館はまさにみずから努め励む場所である。寝室数7、研修室、食堂、風呂が完備されている。

Jikyokan



自彊館

茨城県龍ヶ崎市平畑120
流通経済大学
龍ヶ崎キャンパス内

【特集】

セミナーハウス活用法

〈自彊館・山中湖・湯の丸〉

取材：田畑亨（スポーツ健康科学部講師）

大学生活の特徴は、なんと
いっても長期間にわたる「休暇」
である。夏、冬、春の休みをあ
わせると、約五カ月間にも及ぶ。
この休暇期間は、キャンパス内
での学習に留まらず、様々な場
所で学習を行うことができ、新
たな知識・経験を得ることので
きる期間でもある。

本学は、龍ヶ崎(学内)・山梨・
長野と三方所にセミナーハウス

を所有している。いずれも自然
あふれる場所にあり、夏は避暑
地として、また冬はウインター
スポーツを楽しむなど、季節に
応じて様々なプログラムが行え
る環境である。

今回の特集は、本学が所有す
るセミナーハウス「自彊館(じ
きょうかん)」、「山中湖セミナー
ハウス」、「湯ノ丸セミナーハウ
ス」を紹介する。ぜひキャンパ
スから離れた環境での学習に役
立ててもらいたい。

山中湖セミナーハウス

山中湖セミナーハウスでの過ごし方は様々で、富士山に挑戦するのもよし、山中湖周辺でスポーツで身体を鍛えるのもよし、また、静かに読書に耽るのもよしである。また、近隣には、富士急ハイランドや御殿場プレミアムアウトレットもあり、レジャーやショッピングを同時に楽しむこともできる。



山中湖セミナーハウスを管理する高村夫妻



山中湖 セミナーハウス

山梨県南都留郡山中湖村山中
248-1
TEL 0555-62-9185

先般、教育学習支援センターが発行したパンフレット「ゼミ合宿のスヌメ〜セミナーハウスへ行こう!」の効果もあり、今年の夏の利用状況は過去最高で大忙しのなか、学生を迎えるのがとても楽しみと語ってくれた。

取材を行ったこの日は法学部の信太秀一准教授とその学生がゼミ合宿を行っていた。信太ゼミでは、毎年恒例の行事で二泊三日の滞在期間中、山中湖周辺でのハイキングやテニス、バーベキュー、そして夜は、先生と生徒がアルコールを嗜みながらコミュニケーションを図るプログラムを行って過ごすとのことであった。

山梨県の山中湖畔に位置する「山中湖セミナーハウス」。山中湖役場の脇にある一本道をあがると、「流通経済大学セミナーハウス」と案内板が現れ、その指示に従い進んでいくとセミナーハウスに到着する。周辺には、大学、企業などのセミナーハウスや、個人の所有する別荘が建ち並ぶ場所でも、とても閑静な場所である。

龍ヶ崎、新松戸の両キャンパスからは様々な交通手段がある。ゼミで貸し切りバスを利用した場合は大学からの補助も受けられる。龍ヶ崎キャンパスから中央自動車道を利用し約三時間で到着する。

「山中湖セミナーハウス」は一九九九年に山梨県の建築文化奨励賞を受賞しており、自然と調和のとれた建物である。寝室数六(最大五四名収容)、それに研修室が二つ、食堂、談話室、風呂が完備されている。またインターネットに接続できるコンピュータが二台、無線LAN設備とネットワーク環境も整っている。

山中湖セミナーハウスを管理しているのが高村夫妻である。

Yamanakako seminar house



湯の丸セミナーハウス

寝室数は5(最大44名収容)。研修室、食堂、風呂が完備されている。コンピューターやインターネットのネットワークは完備されていない。また、標高の高い場所であるため、携帯電話等の通信機器も一部不通になる。考え方をえれば、ネットワーク環境に支配されている現代社会から解放されて過ごすことができる環境である。



湯の丸セミナーハウスを管理する丸山夫妻



湯の丸 セミナーハウス

長野県東御市新張字三方峯1272
TEL 0268-63-6802

場所となっている。スキー・スノーボードに関しては、リフト乗り場まで一分と好立地である。湯の丸セミナーハウスで我々を暖かく迎えてくれるのは、丸山夫妻。とても明るく、すぐに打ち解けてしまう魅力を持ったご夫妻である。

取材を行ったこの日は、スポーツ健康科学部の授業科目であるスポーツ方法実習「キャンプ」(田養健太郎准教授担当)が三泊四日で実施されていた。

今回の実習では、セミナーハウスに一泊滞在し、残りの二泊は湯の丸自然休養林内にあるキャンプ場でテントを張り実習を行っていた。

Yunomaru seminar house

長野県と群馬県の県境に位置する湯の丸高原に湯の丸セミナーハウスがある。

湯の丸セミナーハウスへは、常磐線で上野まで行き、長野新幹線に乗車。軽井沢でしなの鉄道に乗り換えて、しげの駅まで登った後、そこからタクシーで湯の丸高原へ。

車を利用した場合は関越自動車道の小諸ICで高速を降り、湯の丸高原へ。所要時間は、龍ヶ崎キャンパスから約四時間かかるが、電車で乗り継ぎや、タクシーの手配を考慮すると車で湯の丸を訪れることをお勧めする。

約一七〇〇メートルと標高が高い場所にある湯の丸セミナーハウスは、流通経済大学の一〇周年記念事業で一九七七年に建設された建物である。

湯の丸セミナーハウス滞在の魅力はなんといってもその自然あふれる環境。湯の丸高原に位置し、湯の丸山、棧敷山、見晴岳に囲まれ、セミナーハウスを拠点として、夏はキャンプ、バーベキュー、登山、ハイキング、冬はスキー・スノーボードと季節に応じて様々な活動ができる。



Y u t a O n o d e r a

無名選手から日本代表へ U20世界ラグビー選手権出場

社会学部2年、小野寺優太（オノデラユウタ）君が、日本で開催されたU20世界ラグビー選手権（2009年6月5日～6月21日）に日本代表として出場した。茨城県立磯原高等学校出身の小野寺君だが、大学ラグビー界のスターが揃う日本代表選手の中で、ある意味浮いた存在であった。日本代表選手には、全国で名前が知られた選手ばかりが選ばれるのが、どのスポーツ競技でも当たり前だが、小野寺君の場合はまったくの無名であった。高校時



代は、花園（全国大会）にも出場できず、決してスター選手ではない小野寺君だが、流通経済大学ラグビー部の内山監督の目に留まり、厳しい練習を積む中で、その才能を開花させ、今回日本代表に選出された。この選出は各メディアにも取り上げられ、一躍脚光を浴びることとなった。小野寺君の活躍は、スポーツに励むすべての選手に希望を与えるもので、今後の活躍を期待したい。

記：田畑 亨 スポーツ健康科学部講師

上野裕一教授（スポーツ健康科学部）のコメント U20世界ラグビー選手権日本代表 団長

6月5日の日本対イングランド戦（0-43）において小野寺君は先発出場を果たした。初の世界大会ということもあり、彼自身とても緊張しており、また動きにも切れがみられなかった。しかし小野寺君にとって、今日が世界デビュー戦でありスタートを切ったばかりである。彼自身まだまだ、荒削りの部分もあるが、試合を重ねる度に伸びる選手であるので、この大会を通し、大きく成長し日本のラグビー界を引っ張る選手になることを期待する。



Y u i c h i U e n o

セミナーハウス 利用ガイド Seminar house user guide

少子化やサブプライムローンから端を発した世界同時不況の影響により、大学経営の悪化が新聞記事を賑わしている昨今、大学所有のセミナーハウス閉鎖が相次いでいる。今回の取材を通して、その現場を直接目にしてきた。この様な社会状況下において本学は郊外に二カ所のセミナーハウスを所有しており、これは本学において大きな財産であると言える。

是非とも長期に渡る休暇を利用し、教員と学生、学生同士、教員同士、教員と職員、家族といったように様々なグループでセミナーハウスを利用し、それぞれの情報交換の場所として利用していただきたい。

利用
できる方

- 本学学生
- 本学園役員、教職員およびその家族
- 本学卒業生
- その他特に利用を認められた本学関係者

利用
申し込み

自彊館

学生生活課（龍ヶ崎）・学務課（新松戸）で「利用申請書」に必要事項を記入し、利用料金を添えて申請してください。
【利用料金（1人あたり）】
500円（1泊食事なし）
※利用は原則として6泊7日以内です。

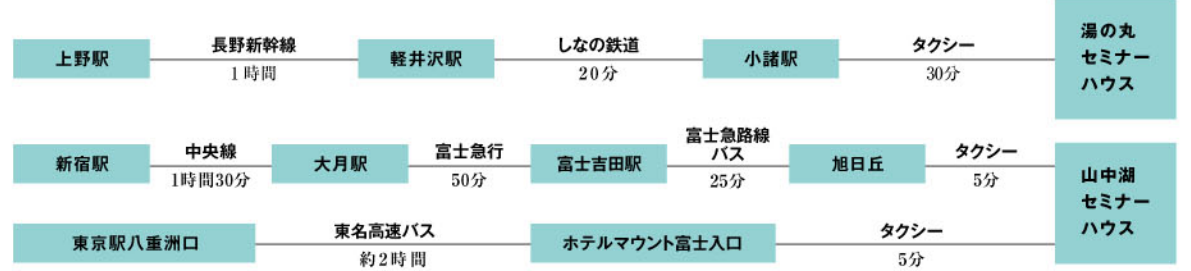
山中湖・湯の丸セミナーハウス

学生生活課（龍ヶ崎）・学務課（新松戸）で「利用申込書」に必要事項を記入し、利用料金を添えて申請してください（その際、領収書と利用券を受け取ってください）。
【利用料金（1人あたり）】
● 山中湖：2500円（1泊2食つき）
● 湯の丸：1500円（1泊2食つき）
※利用は原則として3泊4日以内です。

利用申込書



アクセス



学長の活動
2009年7月～8月

- 7月4日 父母懇談会 講演(新松戸キャンパス)
- 7月7日 総合情報センター運営会議 開催
- 7月11日～12日 社団法人日本私立大学連盟学長会議 出席(京都)
- 7月15日 龍流連携懇談会 出席
- 7月16日 つくば秀英高校、守谷高校 訪問
- 7月17日 湖北高校、藤代紫水高校 訪問
- 7月18日 オープンキャンパス 挨拶 (龍ヶ崎キャンパス)
- 7月21日 学部長連絡会議 開催
- 7月23日 水戸商業高校、勝田高校 訪問
- 7月25日 高等教育の振興に関する協議会 開催(龍ヶ崎キャンパス)
- 7月28日 教員免許状更新講習実施委員会 開催、5学部合同懇談会 出席
- 8月3日 教員免許状更新講習実施委員会 開催
- 8月7日 財団法人運輸政策研究機構 訪問
- 8月19日 教員免許状更新講習実施委員会 開催
- 8月26日 流通経済大学教職員野球部 優勝祝賀会 出席
- 8月28日 大学設置分科会による面接審査 出席(文部科学省)



【学長室だより】
大学および
教育の
多様性

学長 小池田富男

Vol.02

自然環境における「生物多様性」(biological diversity)が予測不能な地球環境の変化への人類の適応と生命の進化にとって不可欠な要件をなすように、ヨーロッパ諸国民の「性格と教養の驚くべき多様性」が近代における社会と文明の進歩の必須の要件であったと指摘したのは、一九世紀を代表するイギリスの

思想家、J・S・ミルであった。すなわち、将来において何が良くて何が良くないかが不可知である以上、「改善を生む唯一の確実で永続的な源泉は、自由である。なぜなら自由があれば、そこには、個人の数と同じだけの、改善の独立した中心となりうるものがあるからである。」と、自由の下での選択の多様性

を指摘する。こうして、歴史の不確実性を無視する設計主義(社会主義・ファシズムも含む)を論破したF・A・ハイエクの自由論や、現代の「進化経済学」の原型が、すでに一九世紀において、J・S・ミルの自由論の中に出来上がっていたのである。にもかかわらず、このミルの自由論やハイエクの流れを汲むはずの現代の新保守主義の教育政策および大学政策では、自由をもっぱら「競争と淘汰の論理」に即して捉え、「共生と寛容の論理」としての一面を見失うことで、本来の趣旨とは逆の道を辿っているように思えてならない。確かに、「競争と淘汰の論理」は、不確実な環境の変化に適応できる「種」を選択していく自然の合理的プロセスではあるが、

それが過当競争によって「種の多様性」を否定するものであつてはならず、「共生と寛容の論理」に裏打ちされなければならぬことは、既にミル自身が自覚していたことだからである。周知のようにグローバル化は、個別化よりも標準化の方向へ、そして多元化よりも一元化の方向へ、社会や経済そして教育までも変えようと作用する。もちろん、それが日本の大学の教育研究水準をグローバル・スタンダードにまで引き上げ、国境を超えた学術交流を推進するという効果を持つことは、何ら否定しない。しかし、一八歳人口が減少して「大学全入時代」が到来するなかで、いわゆる「規模の経済」が作用して、一握りの大規模大学がますます学部数

と収容定員を拡大して個性を喪失していく一方で、圧倒的多数の中小規模および地方の私立大学の存立が危うくなっており、これらの大学ではとても「競争的環境の中で個性輝く」状況にないというのが実情であろう。こうした現状においても、政府の高等教育政策は、相変わらず市場原理による公的資金の重点投資政策(「特色GP」等)によって淘汰を助長し、ブランド志向に走る受験生の一極集中を制御できずに放置したままである。また、多数の中小規模の大学も加盟する社団法人日本私立大学連盟が編纂した「私立大学マネジメント(二〇〇九)」でさえも、こうした現状と大学個性化の一面について、「増加する(隙間(ニッチ)志向の大学」と

表現していることは何とも嘆かわしく、大手私大の不遜な本音をはからず吐露したものである。しかしその程度の個性化であれば、教育の進歩や文明の発展を保証するはずの「教育および大学の多様性」とは全く無縁のものといわざるをえない。流通経済大学は、かつての大手私大のように旧帝国大学の模倣に走り無邪気に「大学(教授会)の自治」と「学問の自由」を掲げて産業界から距離を置いていたのとは異なり、創立以来一貫して「産学連携」を校是とし、産業界や地元自治体等に有為な人材を送るべく実学教育に特化した特色ある教育を行っており、「隙間(ニッチ)」を志向することで生き残りを図ろうなどと考えたことは、一度たりともない。



J. S. ミル
John Stuart Mill,
(1806~1873)
イギリスの哲学者・経済学者。社会民主主義、自由主義思想に多大な影響を与えた。主著として、『自由論』がある。



[教務課]
栗山一弘 課長補佐



[スポーツ健康科学部]
荒井宏和 講師



[法学部]
荒木友雄 教授



[流通情報学部]
内田信行 教授



[社会学部]
都築一治 教授



[経済学部]
長瀬毅 准教授

大学生活は充電期間

私は、本学経済学部経済学科にスポーツ推薦で入学した23期生。在学中は陸上競技部に所属し専門種目は棒高跳。趣味は車で時々サーキットでレース活動もしていた。縁あって本学の事務職員となった。現在配属されている教務課は、入職して最初の配属先でもあり、それまでの間、入試センター、企画調整室(秘書室)を経て今月で出戻り丸7年。陸上競技部には現在もOBスタッフとして関わっている。大学4年間を振り返ると、陸上競技中心の生活だった。私の場合、指導者や環境に恵まれた他大学の選手に勝つことが何よりの楽しみで、それが他にとれない無私私が自画自賛できる唯一のひと時でもあった。

卒業生からよく「大学って良いところでした」と言われる。大学はいろいろなことにチャレンジできるし、失敗を恐れずチャレンジすることを楽しめる。在学生にはそんな大学で厳しい社会で生き抜くための充電を目一杯して貰いたいと願いながら母校で仕事をしている。

オリンピック委員会など社会活動にも積極的に参加

千葉県茂原市出身。筑波大学大学院修士課程体育研究科修了。専門領域は、スポーツ情報戦略、リスクマネジメント。現在、日本オリンピック委員会ナショナルコーチアカデミースクールマスター、和歌山県ゴールデンキッズ発掘プロジェクト知的能力開発プログラム担当委員等数多くの社会的活動も行っている。

スポーツを取り巻く環境が急速に変化していく中、スポーツを組織作りや人材発掘・育成のキーファクターとして捉え、研究・教育を行っている。

スターバックスのコーヒーをこよなく愛し、また情報関係にはとても明るい先生で、学生からの評判も高い。キャンパス内では常にスターバックスコーヒーとノートブックを持ち歩いて行動している。

最近、自宅(つくば)から自転車通勤の日課(?)だとのこと。

(田畑 亨・記)

弁護士の経験を生かした講義が人気

現職の弁護士でおられるが、今は友人の会社の監査役を勤めるのみ。刑事事件は扱っていないそうだ。本学には法学部創設時から。刑法、刑事訴訟法とゼミをご担当。本年3月めでたく定年のため、現在は特例教授という肩書き。豊富な現役時代の経験を生かされ、他では得がたい講義が聞かれると、毎年受講希望者が殺到する。余人をもって代えがたい、法学部の巨峰である。といっても、まことに温和で気さくな御性格。慕う学生は多い。社会活動にも関心が深く、スポーツ大好き人間。

意外にもクルマが好きで、これまで何台も乗り換えられている。現在はエコ・カーにお乗りで、リッター40キロも走るのですと嬉しそうに言われた。

(馬場啓一・記)

「何でもみてやろう、やってやろう」の精神で行動を

人・モノ・資本が自由に国境を超える時代になり、経済のグローバル化は急速に世界を覆いつつあります。30～40年前の「国際化」の時代は、「日本とアメリカ」など限定された二国間の情報のやりとりが中心でしたから、現代とは全く異なるものだといえますね。IT技術の発達した現代では、たとえば、ニューヨークとロンドンとのやりとりが全世界に瞬時につながり、世界中の情報の共有化がいつも簡単になっている、つまり地球規模の関係が出来上がっているわけで、それに伴い貿易構造なども大きく変化しています。

現在私は、国際物流論、グローバル・ロジスティクス論を担当していますが、この地球規模の国際化という状況における航空輸送の役割に興味を持っています。特に国際物流においてはアジアシフトが進んでいることから、国の政策や企業経営などにアジア重視の姿勢が強まっていることに注目しています。

学生諸君には、こうした社会の中で「何でもみてやろう、やってやろう」という精神を持ち、まず行動を起こす姿勢をもってほしいですね。(立川和美・記)

「得意」と「不得意」のあいだで

授業では、社会統計学や調査データを統計分析するためのデータ解析などを担当しています。いずれも数学がかかわってくるので、学生のみなさんは苦手な科目ばかりかもしれません。

専門は社会階層論、社会学のなかでも統計的な手法の応用が進んだ分野で、よく知られた言葉でいえば、格差社会を分析します。もうひとつの専門は数理社会学—また数学が出てきました、社会現象の数理モデルを作る社会学です。

じつは、中学・高校と数学の成績はよくありませんでした。でも科学が好きで、高校は理系クラスでしたが、大学は文学部に進学しました。自分自身のなかに相反するものがあって、うまくまとめられないまま研究に携わるようになり、たどり着いたのが今の専門です。

考えてみれば社会学そのものも、日常と非日常、合理と不合理、理性と感情、知と非知…など相反するものをそのまま抱えて思考してゆく学問です。結果的には、うまく納まったのかもしれませんが。

歴史に学び、現状を打破する

私の現在の研究テーマは、「昭和2年の金融恐慌の再評価」です。第1次世界大戦後の不況が国内を覆っていた昭和2年(1927年)、閣僚の失言がきっかけとなって金融不安が広がり、多くの銀行が破綻・休業に追い込まれました。この後、時代は1933年の世界恐慌に向かって閉塞感を強めていくことになります。

金融システムの危機や世界的な不況など、現在の日本の状況は、当時とよく似ていると言われます。歴史研究を通じて、現状を打破する糸口を見つきたいと思います。

金融恐慌後、地域経済に密着した小銀行が統合・吸収されて現在の地方銀行のような安定した大銀行が出現し、金融システムは安定した一方で、地域独自の経済文化は解体します。銀行と地域の経済・文化の関わりを、現在の地域経済の衰退と関連させて検証したいと思います。

趣味は銭湯巡りです。「衰退産業」と呼ばれて久しい公衆浴場業ですが、試練を経てリニューアルされた魅力ある銭湯がたくさんありますよ!



馬場啓一の
RKU
ウォッチング
【第9回】
スポーツ健康科学部
デビット・シャピロ教授



言葉の達人



● David H. Shapiro /
デビット・シャピロ

ニューヨーク生まれ。ボストンのブランダイス大学、ニューヨークのコロンビア大学、東京の日本研究センターで学び、ハワイやエチオピア、フィリピンで仕事をした経験も。1987年以來、東京在住。ジャーナリズム、マスコミ、出版、異文化コミュニケーションのコンサルティングなどの仕事に従事し、2001年より流通経済大学で教鞭を執る。また早稲田大学でもディベートや異文化関係の科目を担当する。英語・日本語両方で、フィクション、ノンフィクションの著作がある。



ニューヨーク生れの、ニューヨーク育ち。日本で言えばチャキチャキの江戸っ子、というところである。

シャピロ先生のご担当は勿論英語、英会話。他に法と文化も教えていらっしゃる。本学に赴任されたのは八年前だ。

学生の印象はいかがでしょう。「とても真面目で、言われたことをよくこなします。目標を達成しようという意識が強い。でも、もう少し積極的だと、いいかな」
見事な日本語である。細かな

日本語のニュアンスもお分かりで、それをとても上手に駆使され、そしてその理解が深い。

それには理由がある。流通経済大学は多彩な教授陣を擁しているが、シャピロ先生もそのお一人だ。大学で教える傍ら、詩集を出し、絵本を出版されている。

「もっと売れるといいのですが、こういう本は売れないと、相場が決まっている」

日本語で絵本を書き、英語の詩集を出す。すなわち言葉の達人なのだ。それが、日本語をここまで巧みにお話になることこの背景に、ある。

「授業ではシェイクスピアの戯曲を、学生にやらせたりしているのですよ。例えば『マクベス』とか」

是非一度、見てみたいものである。「流経大にも、毎年面白い学生がいます。そういう学生に出会えることが、教師の喜びであり、励みですね」

逆に言うなら、学生はもっと自分をアピールし、シャピロ先生の薫陶を得るべきだろう。そしてこれは先生に限らない。本



学の教授一人ひとりには、そういう学生からのアプローチを待ち望んでいるのだ。

「留学する学生も増えています。国際交流センターも大いに機能しているようです。もっともっと海外に出て欲しい」
ところで趣味はお酒と、何った。

当然ワインだろう。そう思ったら違うんですね、これが。「日本酒が大好きです。ワインも好きですが、最近は専らオサケ、すなわち日本酒です」

ワインやウィスキーを少々飲んだ上で、日本酒の魅力に取り付かれたという。「日本酒は日本文化そのものです。清新で爽やか、奥が深い。大好きですね」

そのうち一度お相手させていただきたいですね。

執筆分野は幅広く、戯曲の「ザ・タミ」はニューヨークのオフブロードウェイで、「サイモンSAYS」は日本で上演された。他にも、比較文化をテーマとしたエッセイ集や児童書、絵本、詩集も刊行されている。



● 人間としての厚みを持ち、
世界で通用する人材に
なってください。

— 大学時代はどのように過ごされたのですか？

私は群馬県の前橋高校を卒業し、流通経済大学経済学部に進学しました。実は流経大は滑り止めだったのですが、日通（日本通運株式会社）に勤めていた父に勧められ、進学を決めました。

一年生の頃から早く社会に出て働きたい、またどうせなら日通で、という気持ちがあったため、私にとって大学は社会人になるための準備期間という意味合いが強かったですね。中島勇

OB/OG訪問

立川が聞く。

Tachikawa hears.

今回は本学卒業後、日本通運株式会社に入社し、アメリカと日本でさまざまな仕事に携わり、現在は東京の本社で営業企画部長として活躍されている安藤伸樹さんにお話を伺いました。

安藤伸樹 さん

(1978年 経済学部卒業)

Nobuki Ando

取材 / 立川和美(社会学部准教授)



次先生の交通論のゼミに所属しながら、英語の勉強に力を注ぎました。というのも、将来は国際航空貨物に関わり、アメリカで仕事をしたいという目標を持っていたからなんです。英語のテープを何度も聞いたり、英会話の専門学校にも通ったりしました。

また、長期の休みはアルバイトに精を出しました。夏はゴルフ場でのキャディ、春は日通の旅行や国内貨物の配達など、いろいろなバイトをしました。

— 卒業後は日通に就職され、アメリカ研修に行かれたのですか。

一九七八年四月に入社し、一九八一年から一年間、ボストンに海外研修に出ました。日本人は所長だけであとはアメリカ人という、日本語はほとんど使

わない環境の中、特に電話は最初の頃、苦勞しましたね。三月くらいして、取引先の仕事の内容やお客様の状況が見えてくると、内容を予想しながら相手の話を聞くことができるようになり、だんだんとボキャブラリーも増えていきました。やはり語学は実践が一番の近道だと強く感じましたね。

— その後、通算一六年間アメリカでお仕事をされることになるのですか。

いったん東京に戻った後、一九八七年一〇月から米国日通のサンフランシスコ支店に営業課長として赴任しました。ちょうどシリコンバレーからハイテクの貨物が出てくるようになってきた時期です。またこの年にアメリカンチェリーが日本のマーケットに解禁になりました。この仕事も大きかったですね。五月中旬から出荷が始まるのですが、一万五〇〇〇トンのチェリーを運ぶために航空機のスペースの手当てやトラックのアレンジメントなど、三か月間、睡眠時間を削って働きました。ピークの二、三週間は、三日間



よって仕事も随分と違いがありますし、新しい土地に慣れることも大変で、赴任先ごとに、新たな勉強がありました。ただ、私の父は転勤が多く、私自身小学校は四回変わりましたが、いやだったという記憶はまるでないですね。むしろ楽しんでいました。転校したその日に同級生を家に連れてくるような子でした。周りの状況をよく見ながら、環境に溶け込む力は、その時に養われたのかもしれない。

— お仕事に情熱をかたむける原動力は何なのでしょう？

達成感ですね。私の場合、日通という大きい看板を背負っているからこそできる仕事もあるわけですし、ミスをする、会社に何億の損害が出ることになりませんので、プレッシャーもあります。しかし、仲間と協力しあいながら無事にやり遂げた時に共有できる大きな達成感、何ものにも代えがたいものです。

— お仕事をする上で大切にしていることは何ですか？

私は営業職に携わってきました

たから、まず第一にお客様を大切にすることですね。お客様が何をしてほしいかを常に考え、そこから答えを予め自分で用意して動くことです。

第二に、仕事を取りたいという気持ちの強さです。最近、仕事を取ってしまうと、それが自分にはねかえって忙しくなることを先に考えてしまう人も多いのですが、決してそうではないですね。

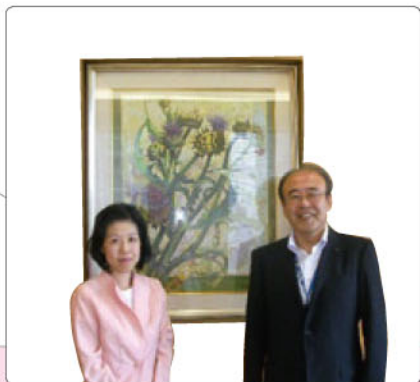
例えば私の経験ですと、入社して間もないころ、当時の係長の後を継いでシチズン時計の担当になったのですが、月に一〇件くらいだった仕事を、西新宿のシチズン本社に直接伺って営業活動をし、三〇〇件までに増やすことができました。もちろん、三〇〇件の処理を一人でするとするのは大変ですから、最初は夜中までかかってでも仕事をします。しかしそんな状況を見た上司は、人の手当をしてくれるものです。軌道に乗せるまでは確かに自分自身が大変ですが、軌道に乗れば、会社として対処でき、大きな成果につなが

るのです。これは結局、会社のためでもあります。自分自身の力を高めることになるわけですから、常に積極的に仕事を取ろうというモチベーションを持ち続けるべきだと思います。

— 最後に、学生に一言お願いいたします。

グローバル化する世の中で、日本人としてのアイデンティティを身につけ、世界でも通用するような人材になってほしいですね。もちろん、その時に英語ができることは大切ですが、言葉はコミュニケーションのツールであり、本人の「気持ち」のほうがずっと大事なんです。それから、人間としての厚みをつけることですね。そのためには、日本の文化を知っておく必要があります。歴史や宗教の本を読み、日本について勉強してください。そうしたことがわ

かった上で、海外に自分で出て、そして今度は現地の人々が何を考えているのか、身をもって体験すべきです。大学時代にしかできないことはたくさんありますが、自分のやりたいことを見つけ、その目標にむけて時間を使うようにしてください。貴重な四年間を、自分の将来のために費やしてほしいと思います。



文字通り、世界を駆けまわってお仕事をされているエネルギッシュなビジネスマンでいらっしゃいます。またその一方、忙しいお仕事の間も、海外赴任先にご両親様を招かれたり、「妻にも随分助けられました」というお話をされたりと、家族思いの温かなお人柄でもいらっしゃいます。時間のあるときやお休みの日には、シアトルにいたときに飼いだめた愛犬サニー(sunny)と散歩をされるというお話をされた時の穏やかな表情も印象的でした。

Tachikawa hears.

流通経済大学校友会からのお知らせ

RKU Information

校友会

流通経済大学第四期卒業生同期会開催

平成21年7月25日(土)、第四期卒業生(1972年3月卒業)の同期会が14時30分から龍ヶ崎キャンパス第2号館第一会議室に44名が集い開催された。当日は朝から蒸し暑く、梅雨明けによく見られる湿度の多い一日であった。

会議に先立ち、第四期卒業生同期会山本幹事長よりご来賓のご紹介があり、恩師である長島名誉教授をはじめ森尾、浜田、小山田各名誉教授からは、往時を振り返りながら、それぞれに熱いメッセージを込めたご挨拶をいただいた。また、流通経済大学校友会事務局長である第一期卒業生の池澤昭夫氏からは「母校ならびに校友会の現状」について説明があり、当時、1学部1学科であった母校も現在

では5学部8学科を擁する中規模総合大学に成長したとの話に出席者の大多数の方が驚いていた。さらに、全国的な少子化に伴う大学入学志願者の確保が難しくなっていること、昨年のリーマンショック以来、就職が大変厳しくなっていることから、入学希望者の推薦や就職支援をとおして母校に対する貢献をしていただきたいとのお話があった。

会議終了後、中庭に出て記念撮影を行ったが、経験と年齢を重ねた好々爺集団として参加者全員が記録にとどめられた。大きく変貌したキャンパスの見学会を実施した後、市内の懇親会会場である「松泉

閣」に移動し、懇親会には母校を代表して三期卒業生の平山流通経済大学事務局長のご参加をいただき、各自自己紹介を行いながら、昔と今のクロスオーバーを自在に楽しんでいた。北は北海道深川市から南は九州大分県までの参加をいただき、紅一点として、盛合(旧姓加倉)貞子さんのご出席があった。始終和やかに、そして時間は急速に過ぎた。

1971年頃の龍ヶ崎キャンパス



参加された第四期卒業生の皆さん



「お客様から感謝の言葉がいただける仕事に就きたい」という許さん。大学でもアルバイト先でも充実した日々を送っているようです。

取材/沖野雅広
(企画広報室)



Hello!
international
student!

留学生紹介
vol.9

社会学部
国際観光学科 4年

許 毓婷さん
シュウ・ユウティン
中国(台湾)出身

周りの人が、私を育ててくれる

——今回、広報誌に出たいと自ら手を上げてくれたそうですが、はい、友達を紹介されているのを見て、同じ留学生として私も載ってみたいと思いい、学務課の留学生担当の方に話を聞きに行きました。

——来日、そして本学に入ったキッカは何だったのでしょうか。

高校時代、観光について学べる学校にいました。その中でフランス語、英語、日本語を勉強していたのですが、漢字を使う日本語が一番得意だったんです。一六歳の時、兄が日本からの留学生を自宅に招待しました(初めて会った日本人です)。

ちょうど日本語を勉強していた時期だったので、挨拶程度ですが日本語で会話して…。話をしているうちに日本に興味を湧き、留学したいと思うようになりました。その留学生にもそう話したら、「ぜひ来てください」と言ってもらえたのを覚えています。そして高校を卒業して一〇年、接客業の仕事をしたがお金を貯めて日本に来ました。

流経大を選んだのは、好きな



観光の勉強ができるからです。でも一番の理由は試験に英語がなかったことかな(笑)。

——日本語が上達した理由は何か。

アルバイトしているラーメン店で友達の間違った日本語に対して、その都度、注意してくれることが上達に繋がったと思います。今でも友達や上司に注意されたり、時には叱られることもあります。でも、私のことを思っ

——アルバイトはとっても楽しいそうですね。

普段はホールや仕込みの仕事が中心ですが、調理場に立ってラーメンを作りますよ。一つ一つ丁寧に仕事を教えてくれるので、新しい仕事にチャレンジする時がとっても楽しくて待ち遠しいです。

Hello! international student!



く感じます。台湾では一度教えたことについては、繰り返し教えることは出来ません。出来なければずっと出来ない人と決められてしまいます。今のアルバイトは厳しい中にも優しさがあり、チャレンジするチャンスが沢山あるので私には合っているようです。

——これからの夢を教えてください。

台湾で働いていた時、お客様の悩み事を解決した時にいただける感謝の言葉が、とても印象的でした。将来はそんな感謝の言葉がいただける仕事に就きたいと考えています。





01 職員野球大会

第46回日本私立大学連盟教職員野球大会 優勝!

本学教職員野球部は8月5日から7日に開催された2009年度 第46回私立大学連盟教職員野球大会において、初優勝を果たしました。

今回の大会では、2人の学生トレーナーが3日間にわたってチームに帯同し、炎天下の中でプレーする選手に対し試合中はアイシングやテーピング、試合後はマッサージと大活躍でした。

▽
▽
▽

「今回、学生トレーナーとして参加させていただき、現場でしか感じられない緊張や喜びなど様々な貴重な体験をありがとうございました。この経験を忘れずに、今後の活動に繋げていきます」

(スポーツ健康科学科2年) 大島駿さん

「今回、優勝の瞬間を間近で見ることができとても感動しました。学生ながら、このような機会に帯同することができたことに感謝します。ありがとうございました」

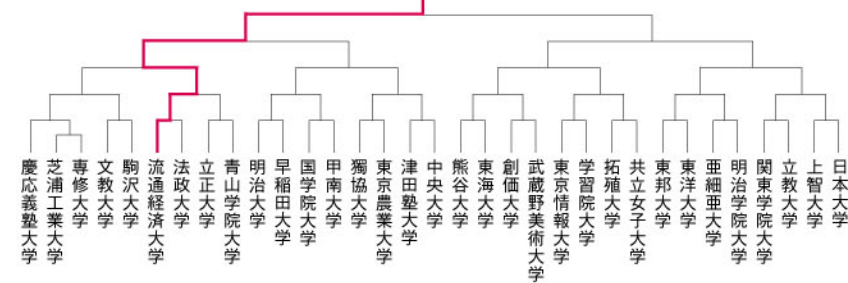
(スポーツ健康科学科1年) 吉宮奨さん

第46回日本私立大学連盟教職員野球大会 組み合わせ



優勝

1回戦	VS	法政大学	28対2
2回戦	VS	青山学院大学	4対1
3回戦	VS	駒沢大学	7対0
4回戦	VS	中央大学	8対1
5回戦	VS	立教大学	4対2



02 海浜実習

6月29日出発と7月2日出発の2班に分かれて、スポーツ健康科学部の学生たちが沖縄渡嘉敷島で海浜実習を行いました。

沖縄の歴史や文化に関する講義をはじめ、水中での救命活動など、日常では学べない実務体験が学生を成長させます。



03 キャンプ実習

8月29日～9月1日の3泊4日で、学生29人が湯の丸高原で行われたキャンプ実習に参加しました。

初日はキャンプに関する講義を受講し、2日目以降は実地研修(テントの設営、野外調理等)を経験。3日目には2班に分かれて野外調査を兼ねた登山も行われました。最終日には、「キャンプ・インストラクター」資格取得のための試験も実施され、厳しいスケジュールの中での学生たちの真剣な眼差し、自然を楽しむ笑顔が印象的な実習となりました。



RKU Schedule 2009年10月～2010年1月

全学

10/31～11/1 つくばね祭(龍ヶ崎)

11/28

三宅雪嶺記念資料館講演会(新松戸)

就職関連

10月開催【3年生対象】

・第5回就職ガイダンス(履歴書・エントリーシート対策)

・第6回就職ガイダンス(4年生内定者による就職活動体験発表会)

・留学生就職ガイダンス

【編集後記】

■秋学期の授業は、9月25日から始まっている。また、課外活動のリーグ戦等が活発に行われている。龍ヶ崎キャンパスの学園祭である「つくばね祭」は今回で44回を迎え10月31日(土)と11月1日(日)に盛大に開催される(新松戸キャンパスの学園祭である「青春祭」は、去る6月20日(土)、21日(日)の2日間開催)。

このように秋学期は多彩な催しがありキャンパスは、躍動感に満ち溢れる。しかし課外活動、特に運動部はリーグ戦や大会に臨むまでに厳しい練習・合宿等をしてきており、その成果が試されるシーズンでもある。さて今シーズンはどのクラブが好成績を挙げるのだろうか、注目していきたい(試合予定、試合結果は本学のホームページで見ることができる)。

■現在、秋学期の授業開始からは1ヶ月を迎えたところであるが、10月27日(火)から読書週間が始まる。秋の夜長に本を読んで過ごす、学生諸君には是非実行していただきたい。因みに読書週間は11月9日(火)までであるが、読書のすばらしさは誰もが認めることであり、学生のみならず末長く読書に親しんでいきたいものである。

■さて、季刊で発行している本誌は今号(9号)で3年目を迎える。いままでに寄せられた貴重なご意見・ご要望等をもとに編集委員会一同、充実した「RKU Today」にすべく努力していく所存である。

ご意見、ご要望等がありましたら企画広報室にお寄せ願いたい。

(編集子)



RKU OPEN CAMPUS 2009

今年度のオープンキャンパスは、
10月3日(土)・龍ヶ崎、新松戸の
両キャンパスでの開催ですべて
終了となりました。
今後も下記の入試相談会をはじめ
として、各種ご相談やキャンパス
見学などは随時受け付けており
ますので、入試センターまでお
問い合わせください。

入 試 相 談 会 開 催 中

- 毎週**土曜日**に龍ヶ崎、新松戸の**両キャンパス**で開催中(10:00~14:00)
- **個別**にゆっくり説明を受け、**相談**することができます。

お問い合わせ : TEL **0297-60-1156** (入試センター直通)

<http://www.rku.ac.jp/go> (受験生向けスペシャルサイト)

RKU

流通経済大学広報誌 **RKU Today vol.9** 2009年10月発行

編集・発行 / 学校法人日通学園 流通経済大学企画広報室

茨城県龍ヶ崎市平畑120 〒301-8555 TEL : 0297-64-0001 (代表)

